

をいふなり、

〔太平記〕七 千劔破城軍事

城ノ逆木一重引破テ、切岸ノ下迄ゾ攻タリケル、略中 此時城ノ中ヨリ、切岸ノ上ニ横ヘテ置タル

大木十計、切テ落シ懸タリケル間、將基倒ヲスル如ク、寄手四五百人、壓ニ被討テ死ニケリ、

〔太平記〕二十七 田樂事附長講見物事

今年多ノ不思議打續中ニ、洛中ニ田樂ヲ翫ブ事、法ニ過タリ、略中 將軍ノ御棧敷ノ邊ヨリ嚴シキ

女房ノ練貫ノ妻高ク取ケルガ、扇ヲ以テ幕ヲ揚ルトゾ見ヘシ、大物ノ五六ニテ打付タル棧敷傾

立テ、アレヤノト云程コソアレ、上下二百四十九間共ニ、將基倒ヲスルガ如ク、一度ニ同トゾ倒

ケル、略中 梶井宮モ御腰ヲ打損ゼサセ給ヒタリト聞ヘシカバ、一首ノ狂歌ヲ四條川原ニ立タリ、

釘付ニシタル棧敷ノ倒ル、ハ梶井宮ノ不覺ナリケリ

又二條關白殿モ、御覽シ給ヒタリト申ケレバ、

田樂ノ將基倒ノ棧敷ニハ王計コソ登ラザリケレ、又見海藻芥

〔槐記〕享保十六年十月十九日、昔愛宕故大納言ハ、將基ノ上手ナリシガ、志ハキタナキ物也、歩ノナ

リタルハ金也、金ナレバ何デアラウトモ、本ニハ構ヒアルマジキナルニ、歩ノナリタル金ト本ノ

銀ト、カヘントハ思ハレヌモノ也、金ハ金ナレドモ、俗性ガ歩ナル故ナリト申サレタリ、金ニナリ

テモ俗性ハ俗性ナルコト、尤也ト申サレタリ、

〔有徳院殿御實紀附録〕十九 或時侍臣に宣ふには、群下を馭するに、象棋つかひおりばつかひとい

ふ事あり、象棋つかひといふは、まづ盤にむかふより心をさだめ、王將の位を正しく守り、金銀桂

馬各その職を犯さず、飛車角より歩兵にいたるまで、一手いだすも疎略なく、ひづみのなきをも

と、し、時にのぞみ事により、狼狽せざるをよしとす、これ名將の士卒を指揮するにたとふ、また